

■花柳はるみ 日本の映画女優第1号になるも、舞台に復帰，“ストリンドベリ女優”と称されるも、突然引退し消息不明。

はなやぎはるみ

白馬会・・・1896＝ 茨城県鹿島郡豊津村で、大地主糟谷慎吉の長女に生まれる。母はちか。本名いし。

日露戦争終・・・1905＝ 9歳：

明治天皇没・・・1912＝16歳： 叔父を頼って上京、麹町高等女学校に入学。のち神田の基督教女子青年館の寄宿舎へ移る。

第一次大戦始1914＝18歳： 松井須磨子にあこがれ、

21ヶ条要求・・・1915＝19歳： 芸術座第1期研究生となる。同年の芸術座第5回公演「その前夜」に花柳春美の芸名で初舞台。

ロシア革命・・・1917＝21歳： *秋田雨雀らの民衆劇社に参加、花柳はるみと改めて「革命婦人」に主演。

本格政党内閣1918＝22歳： *婦山教正の映画第1作「生の輝き」のヒロインを演じ、日本映画の女優第1号となる。

続いて教正の「深山の乙女」「白菊物語」に主演。

大暴落・・・1920＝24歳： 松竹蒲田撮影所に入社、「奉仕の薔薇」に出演するが、直後に退社し、以後舞台に専念する。

原敬首相暗殺1921＝25歳： 研究座に入り「地霊」「かもめ」などに出演、先駆座の「なかま同志」のベルタを演じ、随一のストリンドベリ女優と称された。この間、読売新聞記者倉林梅次郎と結婚、3人の子をもうける。

関東大震災・・・1923＝27歳：

護憲三派圧勝1924＝28歳： *築地小劇場が創立されると、小山内薫に招かれ、ゴリキー作「夜の宿」のナースチャ・ストリンドベリ作「稲妻」のゲルダ・チェーホフ作「桜の園」のラネーフスカヤ夫人・「三人姉妹」のマーシャなど次々と大役をこなす。断髪で目が大きく扇情的で、精悍な牝猫と評された。このころ詩人中野秀人と恋愛、夫と子供を捨てて同棲し、

治安維持法・・・1925＝29歳： 築地小劇場を退団する。

円本時代始・・・1926＝30歳： 秀人と{戸をたたく座}を結成、ストリンドベリの作品に出演するが、以後はフリーとして新劇協会を中心に活躍する。村山知義作「勇ましき主婦」・池谷信三郎作「三月三十二日」などに出演。

共産党事件・・・1928＝32歳： 金子洋文脚色「我輩は猫である」で金田夫人を演じ、苦沙弥夫人の伊沢蘭著と研を競った。

世界恐慌・・・1929＝33歳： *プロレタリア演劇にも積極的に参加、心座・前衛座・左翼劇場などに出演するが、東京帝国大学在学中の滝田英二と恋愛、突然引退を表明して周囲を驚愕させた。

海軍軍縮条約1930＝34歳： 名古屋で英二と結婚、滝田意志と名のり演劇界から完全に消息を絶つ。

満州事変・・・1931＝35歳：

五一五事件・・・1932＝36歳：

日中戦争始・・・1937＝41歳：

日米開戦・・・1941＝45歳：

敗戦・・・1945＝49歳：

朝鮮戦争始・・・1950＝54歳：

独立回復・・・1951＝55歳：

美智子妃・・・1959＝63歳：

安保闘争・・・1960＝64歳：

全国総合計画1962＝66歳： 愛知県常滑市で、没した。